

令和2年度 学校評価

本年度の重点目標	(1) 安心・安全な学校 (3) 充実した学校生活 (5) 多忙化の解消を図る	(2) 学習指導と進路指導の充実 (4) 地域社会から信頼される学校づくり		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	まとめ(評価と改善策)
総務 (総務部)	(1) 教育活動の効率的な運営の確立 (2) 学校内規の整備と運用方法の工夫 (3) 地域に向けての情報発信の整備・工夫	(1) 年間行事が教育活動に効率的に働いているか検討する。 (2) 各分掌で内規の見直しを継続する。 (3) 保護者、中学校、地域社会への情報発信の方法を整備し工夫する。	(1) 各分掌に依頼し、検討内容を検証する。 (2) 内規の見直しを継続的に実施する。 (3) PTA行事等の見直しを行う。本校の取組を中学校や地域に広く情報発信していくための方法を考える。	(1) 新型コロナウイルス感染拡大を受け、各行事3密を避けた内容で実施できるように再検討した。TOGO ART FESTA等は感染予防の観点から中止したが、次年度以降については、形態、時期等を検討することにより開催したい。 (2) 生徒指導部、教務部を中心に内規等について検討を進めることにより、本校が抱える課題について議論することができた。 (3) 新型コロナウイルスによる休校中に、各教科より学習を補助する動画を配信した。また、飛沫感染防護シートを作成、報道各社からの取材、発信を媒介にして、本校独自の感染予防対策をアピールした。コロナ禍の中、感染予防対策を施すことにより、例年通り2回の学校見学会を実施した。
学習指導 (教務部)	(1) 「魅力ある授業」の実践 (2) 教科指導法の工夫と改善 (3) 教員相互の授業研究 (4) セキュリティの向上 (5) メソフィアの活用 (6) 情報機器の活用	(1) 能動的な学習活動を進める。 (2) 生徒の実情に合った学習教材を作成し教科指導を行う。 (3) 授業研修等とおし情報等を共有し、個々の教員の指導力向上を図る。 (4) 情報資産の管理を徹底する。 (5) メソフィアの活用を図る。 (6) 情報機器の活用を促進する。	(1) 能動的な学習法を取り入れた授業実践をする。 (2) きめ細かな指導の充実と授業力の向上を図る。 (3) 異なる教科の授業等も積極的に参考とし、指導力の向上を図る。 (4) 情報資産管理の実態の把握と意識の向上を図る。 (5) 成績処理の適切な実施とセキュリティの向上を図る。 (6) プロジェクターをはじめとしたICT環境の整備を行う。	(1) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、11月の公開授業を中学校の教員のみを対象とし行った。その後、中高連絡協議会を行い有益な情報交換を行うことができた。また、令和4年度からの新教育課程の検討を継続して行い、本校の実態に即した教育課程の案を作成することができた。 (2) 通常授業においてタブレットPCやプロジェクター等を活用した学習指導を継続的に行っており定着しつつある。 (3) 授業研修等とおし、情報交換に努めた。新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校時には、多くの教員がデジタル教材の作成に取り組んだ。 (4) 情報資産管理の実態を把握し意識を向上するため、定期的に調査をし、情報資産の整理を呼びかけた。 (5) 本年度よりメソフィアの成績処理機能等を利用しており、操作手順についての現職研修を実施した。 (6) 職員PC及び周辺機器の整備・管理等を円滑に行うことができた。また、授業以外にも積極的に活用する機会が増えつつある。
生徒指導 (生徒指導部)	(1) 交通安全運動の推進 (2) いじめの未然防止に係る取組の充実 (3) いじめの早期発見、適切な事案対応	(1) 交通事故の減少と交通ルールの徹底 (2) 全校集会や学年集会、HR活動において、いじめ問題を考える機会を設ける。 (3) いじめの情報収集、事案対応に係る学校いじめ防止対策組織の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。学校生活におけるアンケートの実施方法やその後の対応のあり方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。	(1) 交通安全に関する指導法を工夫し、交通事故発生数を昨年度より減少させる。また安全委員会を通じて、交通安全に対する意識を高める啓発活動を実施する。 (2) 生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題としてとらえられるようにする。 (3) 学校いじめ防止対策組織の役割を生徒や保護者に周知することで、生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境作りを行う。生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応のあり方について検討する。	(1) 交通安全立ち番時の様子や地域からの情報提供をもとに適宜指導を実施したが、コロナの影響や近隣中学での自転車指導が行われなくなった事も関係しているのか、交通事故は大幅に増加してしまった。(14件→50件) (2) 学校生活におけるアンケートの中で、自分ではない事への記入もさせることで、いじめの抑止力に繋げることができた。また、友人が受けているかもしれないという記述から、早期に対応することに役立った。全校集会はコロナの関係で実施できなかったが、適宜、学年集会を実施した。情報モラルに関する話、いじめに関する話、周囲の気持ちを考えた言動等について講話を行い、いじめの未然防止に繋げることができた。 (3) 学校生活におけるアンケートを集約し、面談が必要と判断した事案に対しては面談を実施した状況を共有フォルダに入力する形で情報共有をした。また、その状況を相談委員会で共有することができた。
特別活動 (特活部)	(1) 生徒会活動の一層の活性化 (2) 学校行事の運営方法の検討 (3) 部活動環境の一層の充実	(1) 生徒会による対外的な活動及び、生徒議会の積極的な開催。 (2) 生徒会や部活動生徒などが主体となった学校行事の運営方法の検討。 (3) 活動場所や用具等の点検を行い、充実した活動ができる環境を整える。	(1) 生徒会や生徒議会の意見を取り入れ、主体的に参加しているという意識を高める。ボランティア等にも積極的に参加する。 (2) 生徒が主体の行事にあって、その運営も含めて生徒が主体となれるような方法を検討する。 (3) 経年劣化した用具の修理や購入を行うなど、安全に活動できるように配慮する。	(1) 新制服の検討や体育大会の実施種目に関して、全校生徒に対して生徒会からアンケート調査を実施し、できる限りの意見を取り入れるようにした。ボランティア等としては、赤い羽根共同募金に参加した。12月には、生徒会役員と東郷町議会広報聴取委員の方々と意見交換会を行い、地域との連携を進めることができた。 (2) 体育大会ではアンケート調査の結果を取り入れ、借り物競争を実施した。ルールの設定から当日の運営まで、生徒会を主体として実施した。反省や課題を整理して、次年度につなげていきたい。 (3) 50周年基金から部活動関係の備品を購入いただいた。今後も、体育館のスポットライトなどの老朽化した特活関係の備品が購入できるように、予算を確保していきたい。
進路指導 (進路指導部)	(1) 進路目標の自己実現 (2) キャリア教育の推進	(1) 情報を精選・整理し、必要な時に必要な情報を教員・生徒に提供する。 (2) 補習、模擬試験等を企画し、学力の向上を図る。 (3) 進路講演会等を通じて、進路目標を持たせ、自己実現を図る。 (4) キャリア教育の充実を図る。	(1) 新入試制度についての情報の収集、対応について、学校全体での取組について検討する。 (2) 模擬試験の結果分析を行い、教科主任会で報告・検証を行う。 (3) 平常補習、長期休業中の補習、校内模試、進路講演会等の企画運営を行う。 (4) キャリア教育について探究の時間の活用が図れるよう教務とも連携を図る。	(1) 今年度から始まった共通テストでは、記述式問題はなくなったとはいえ、入試改革は継続するので入試情報の収集に努めていきたい。 (2) 模試結果の報告については、教科・学年での対応に役立てられる資料となるよう今後も努めていきたい。 (3) 模試は今年度、校外での実施ができなかった。進路講演会も日程を変更することで予定していた分は実施した。補習については、平常補習はほぼ予定通り、休業中の補習も日程を変更しながらも先生方の協力を得て実施することができた。また、2学年では進路ガイダンスを実施したところ好評であった。 (4) 総合の時間等を活用し、進路に関する各学年の取り組みを行うことができた。
図書 (図書部)	(1) 読書活動の啓発 (2) 創作活動の推進 (3) 図書館の有効活用	(1) 図書だより、掲示物等で蔵書を紹介する。 (2) 生徒に創作や発表の機会を設ける。 (3) 学習室としての環境を整備する。	(1) 図書だより、ポスター、POP等の作成を通して図書への興味を喚起し、読書習慣が身につくよう啓発していく。 (2) 掲示物等の制作機会を与え、生徒が作品等を発表する場を設ける。 (3) 蔵書の充実、環境の整備により学習室としての図書室利用を促す。	(1) 「図書だより」や新規購入図書案内ポスターを定期刊行して掲示した。チャレンジ5や本の福袋などで読書への働きかけを行った。 (2) 図書委員会でおすすめ図書カードの紹介ポスターを作り、創作活動の機会を設けた。 (3) 生徒の図書館利用の状況を研究し、研究会議で職員に紹介することで生徒の読書習慣について考える機会とした。グループ学習、調べ学習の利用に応えるべく、蔵書の充実と館内設備の整備を進めた。古い書籍の廃棄について実施し、新しい書籍との入れ替えを進めた。

保健 (保健部)	(1) 清掃活動の充実 (2) 教育相談の充実と個別支援の体制化 (3) 健康な心身の育成と命を守るこころの教育 (4) 防災意識の啓発	(1) 10分間清掃 (2) 生徒情報の共有・周知と職員の意識向上 (3) 健康観察の励行と個を認め合う心の教育 (4) 防災意識の向上と防災関連物品の整備	(1) 環境・美化に対する意識を高め主体的に清掃活動をするように指導する。環境・美化委員会の活動の活性化を図る。 (2) 担任会(学年会)や教育相談委員会で生徒情報の共有と周知を徹底し、早期の問題解決を図る。スクールカウンセラーと連携し、個々の生徒への支援を円滑に行う。 (3) 日々の健康観察や健康診断結果による指導を通し、生涯にわたる自己の健康管理を目指した保健指導を行う。個を認め合い、自他の命を守る教育を行う。 (4) 防災意識を高めるための行事を生徒指導部や特別活動部と連携し円滑に進める。校内の施設、防災関連用品の整備を順次行っていく。	(1) 毎日の10分間清掃を通して、環境・美化への意識を高めた。環境美化強調週間を10月に実施した。2年生環境委員が校内を巡回するなど自主的な活動を行った。 (2) 教育相談委員会や学年会で、生徒の情報を共有することができた。スクールカウンセラーの助言も得ながら、個々の生徒への支援を行うことができた。 (3) 新型コロナウイルス感染症の防止策で、マスク着用、手指消毒、換気、食事のマナーなどの啓発活動を行った。感染症から体を守るための知識を身に付けさせることはできたが、毎日の実践で習慣として身に付けられるかが今後の課題である。 (4) 防災についての職員研修を行った。学校周辺の土砂崩れの注意場所や大雨時の水がたまる場所を示すことができた。大地震が起きた時の職員の活動を再確認できた。防災グッズで簡易トイレを紹介し、トイレが使えなくなることもあるなど職員全体で具体的に意識し、対策について考える機会になった。	
学年会	1年	基本的な生活習慣と学習習慣の確立	(1) 規範意識の育成 (2) 学習サイクルの確立 (3) 自己理解と進路目標の設定	(1) 学年団全員で、組織的かつ継続的に生徒指導に取り組む。 (2) 生徒の能力に応じた学習指導の計画と実施。 (3) 総合的な探究の時間等を活用し進路意識の涵養を目指す。	(1) 学年団全員による平素からの継続的な声かけを行い、規範意識の向上を図ることができた。学年集会等を用いて、SNS利用マナーおよび交通マナーの改善に、より一層努めていきたい。 (2) 成績上位者指導を実施し、学年を牽引する学習集団の形成に取り組んだ。また土曜学習会、成績不振者学習会も実施し、生徒の能力に応じた学習の場を用意した。課題・実力テストに向けての動機付けと、余力者向けの学習指導をより充実させていきたい。 (3) 総合の時間を用いて進路目標を立てるための足場かけ学習を行った。来年度以降も継続して行っていきたい。
	2年	基本的な生活習慣と学習習慣の定着	(1) 健全な生活習慣の定着 (2) 計画的な学習習慣の定着	(1) 学年団全員で、組織的かつ継続的に生徒指導に取り組む。 (2) 主体的な学習活動に対する指導と支援。	(1) 普段の学校生活においてや、特に修学旅行の事前学習及び修学旅行を通して、時間を守り、状況に応じて行動できるよう、組織的に継続して指導した。周りと協調して行動したり、自主的に行動したりできる生徒が増えた。 (2) 機会を捉えて、学習への動機づけをし、補習や考查週間の居残り学習時間、土曜学習会を設定した。生徒たちがそれらを活用して、積極的に学習に取り組む習慣が定着してきている。
	3年	進路目標の実現	(1) 社会人としての自主性の育成 (2) 明確な進路目標の設定 (3) 基礎学力の早期定着と確かな応用力の育成	(1) 生徒自身が判断できる場面を多く設定する。 (2) 面談をもとに適切な情報提供・助言を行う。 (3) 授業・補習などを利用した学力の向上を目指す。	(1) 体育大会や遠足などの学校行事を中心として、あらゆる学校生活の場で意識的に取り組ませることにより自主性を育むことができた。 (2) 月ごとに進路希望調査を実施し、生徒の意向を常に把握することに努めた。また、模試の結果や進路情報等を用いて積極的に面談を行うことで、進路目標を明確にすることができた。 (3) 補習への参加率は良好で、補習を通して基礎学力の定着と応用力の育成をはかることができた。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		(1) 規律、学力、体力の向上 (2) 環境整備			

学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	学校目標に示された「知・徳・体の調和を保ち、国家・社会に貢献できる人材の育成」のための実践と、本校の更なる発展を目指した教育活動について
自己評価結果について	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、5月まで臨時休業となったため、TOGO ART FESTAや芸術鑑賞会等行事の中止を余儀なくされ、実施する行事や授業も、飛沫飛散や3密を避ける必要から、制約の中で実施しなければならない一年だった。その中で、学校行事が生徒たちの人間関係の構築に大きく役立っていたことを改めて認識し、感染対策を施しながら、来年度以降の学校行事に反映していきたい。 東郷高校の魅力発信のために、さまざまな企画について新聞社に情報提供し、記事にもらった。来年度も、制服変更などさまざまな発信をしていきたい。 年度初めの臨時休業の影響もあるが、人間関係をうまく築けずに学校に来られなくなるケースが見られた。
今後の改善方策について	コロナ感染対策の観点からも、BYODの推進を図る必要がある。また、新学習指導要領の実施を控え、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を展開しなければならない。教員研修を一層充実させ、新しい取り組みに果敢にチャレンジする環境を作りたい。 新制服披露など、本校のさまざまな活動を、地域に発信する活動を継続し、生徒募集に繋げたい。
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	・コロナ禍で難しい状況の中、学校をうまく運営していただきありがたかった。今後も対策に苦慮することもあるだろうが、お願いします。 ・外部に東郷高校で行われている心を育てる活動などを発信していくとよい。 ・交通安全には十分留意してほしい。
学校関係者評価委員会の構成および評価時期	・構成…学校評議員4名 ・評価時期…6月・2月